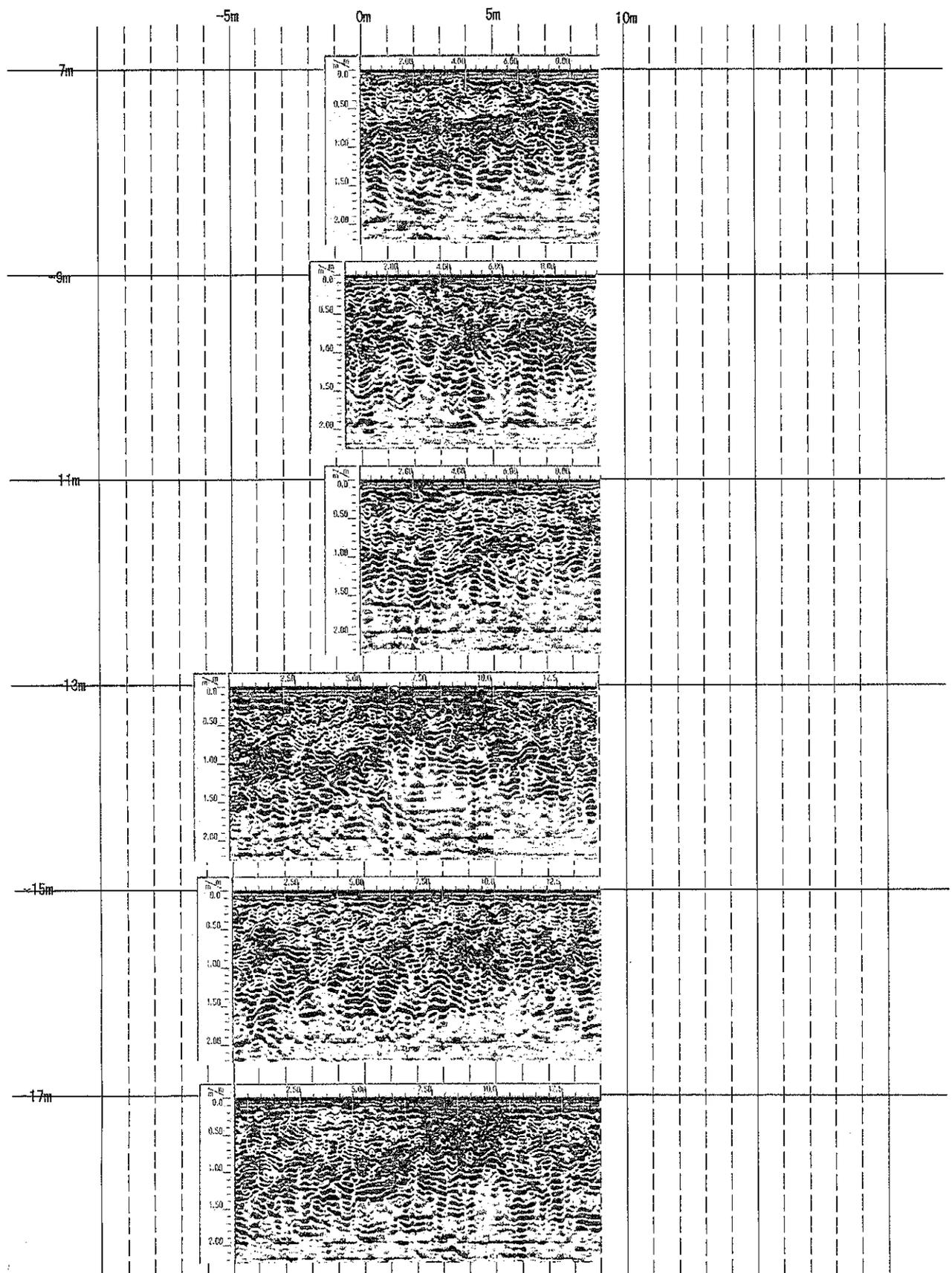
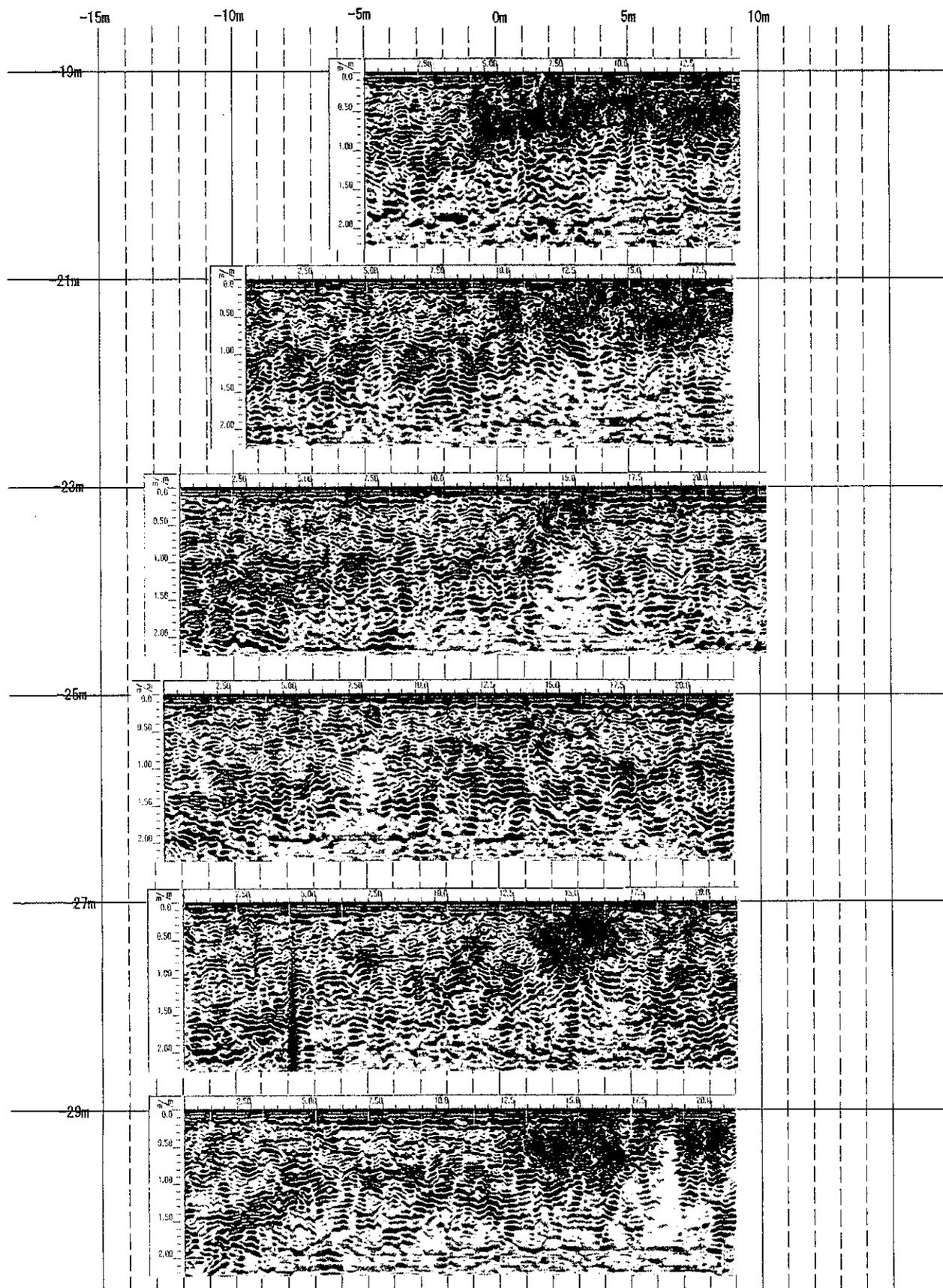


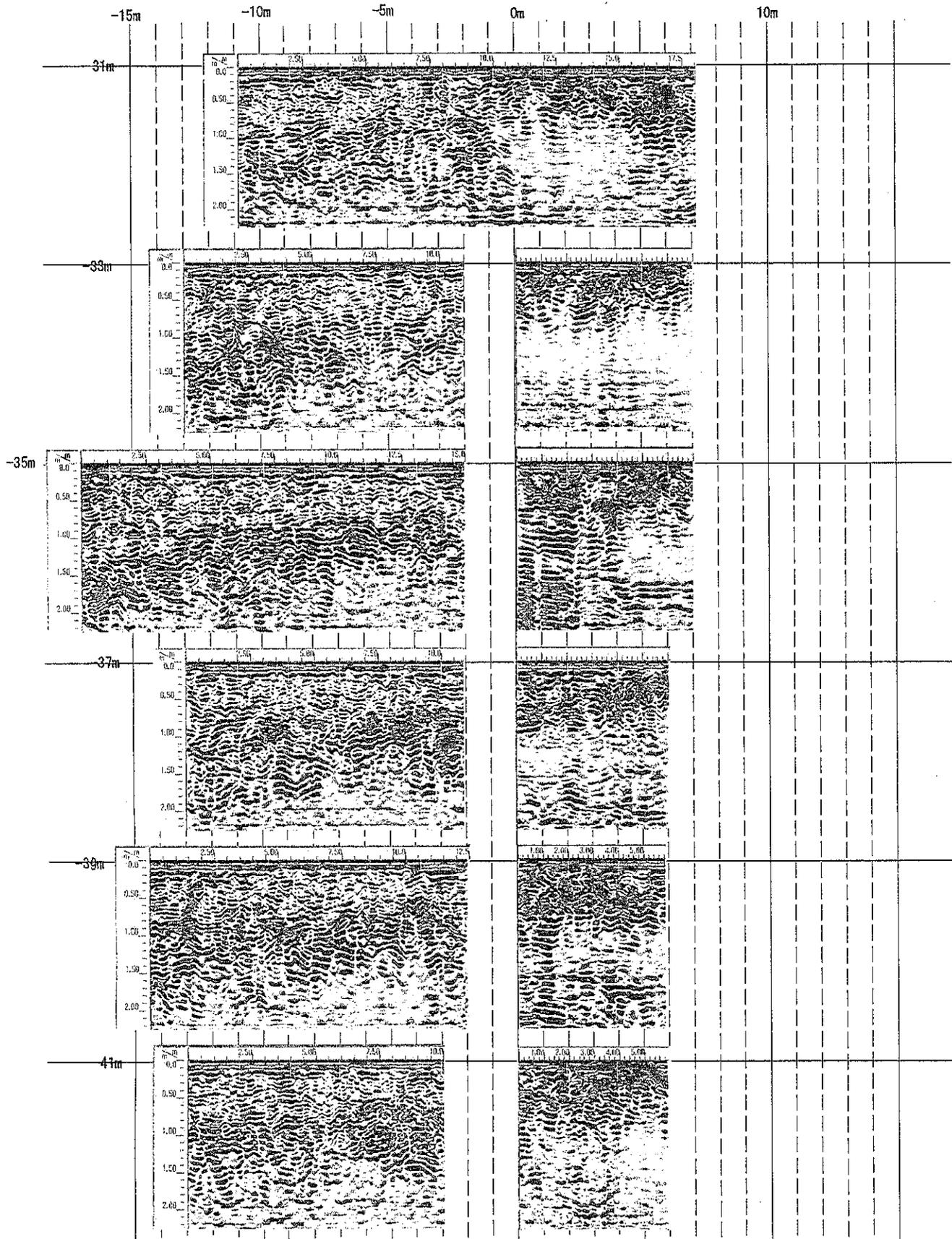
APPR	DATE	CHKD	DATE	Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究 レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 探査深度2.5m	財団法人 廃棄物研究財団殿	
APPR	DATE	CHKD	DATE		DWG. No.	Page
APPR	DATE	DWG	DATE		EES-00-007	
SURVEY	DATE	SCALE	Work No.		TSK 月島機械株式会社	
		None	A99-001			



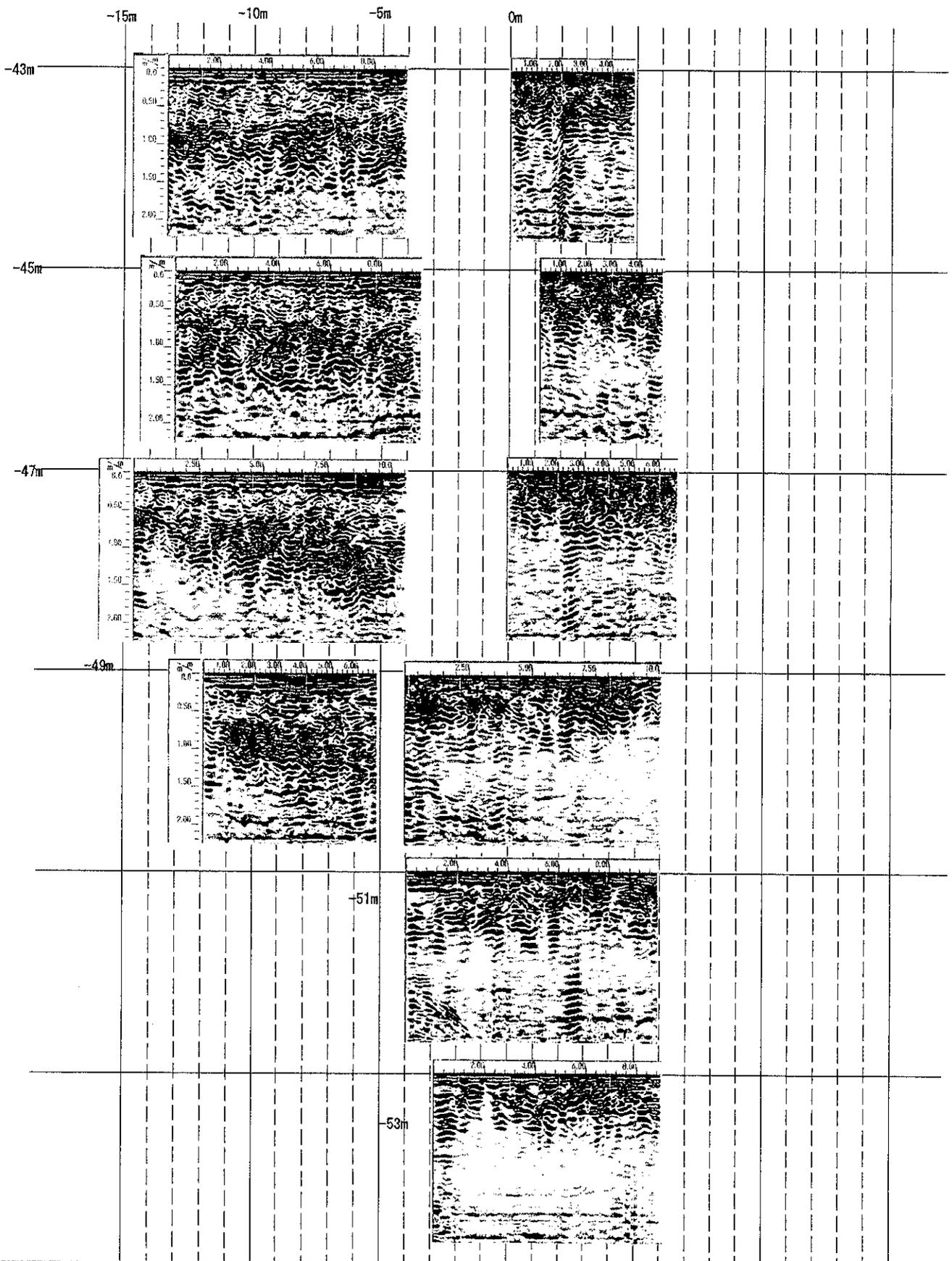
APPR	DATE	CHKD	DATE	Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究	財団法人 廃棄物研究財団殿	
APPR	DATE	CHKD	DATE		DWG. No. EES-00-008	Page
APPR	DATE	DRG	DATE	レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 探査深度2.5m	TSK 月島機械株式会社	
SURVEY	DATE	SCALE	None	Work No. A99-001		



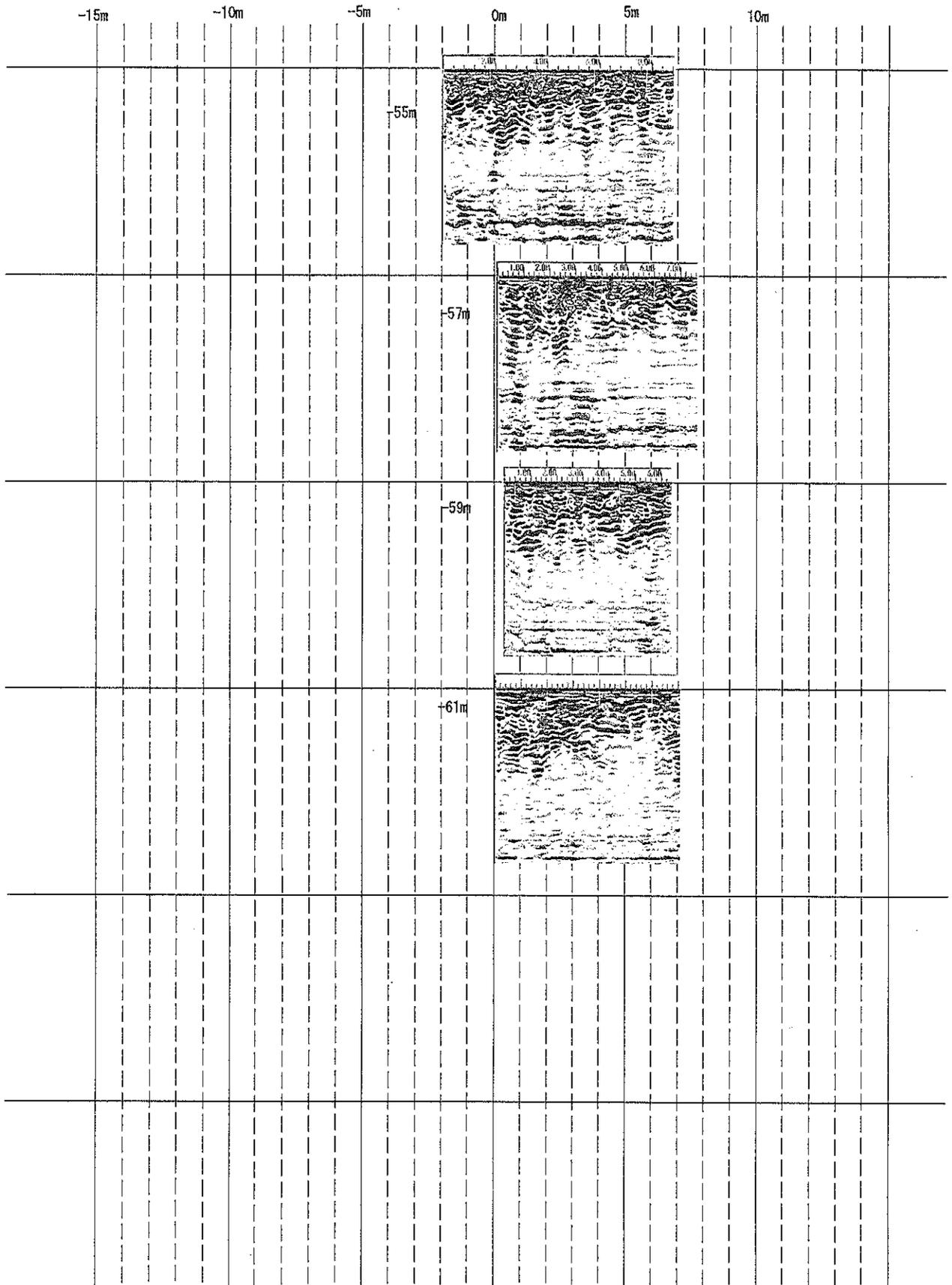
APPR	DATE	CHKD	DATE	Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究 レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 探査深度2.5m	財団法人 廃棄物研究財団殿	
APPR	DATE	CHKD	DATE		DWG. No.	EES-00-009
APPR	DATE	CHKD	DATE		Page	
SURVEY	DATE	SCALE	None	Work No.	A99-001	TSK 月島機械株式会社



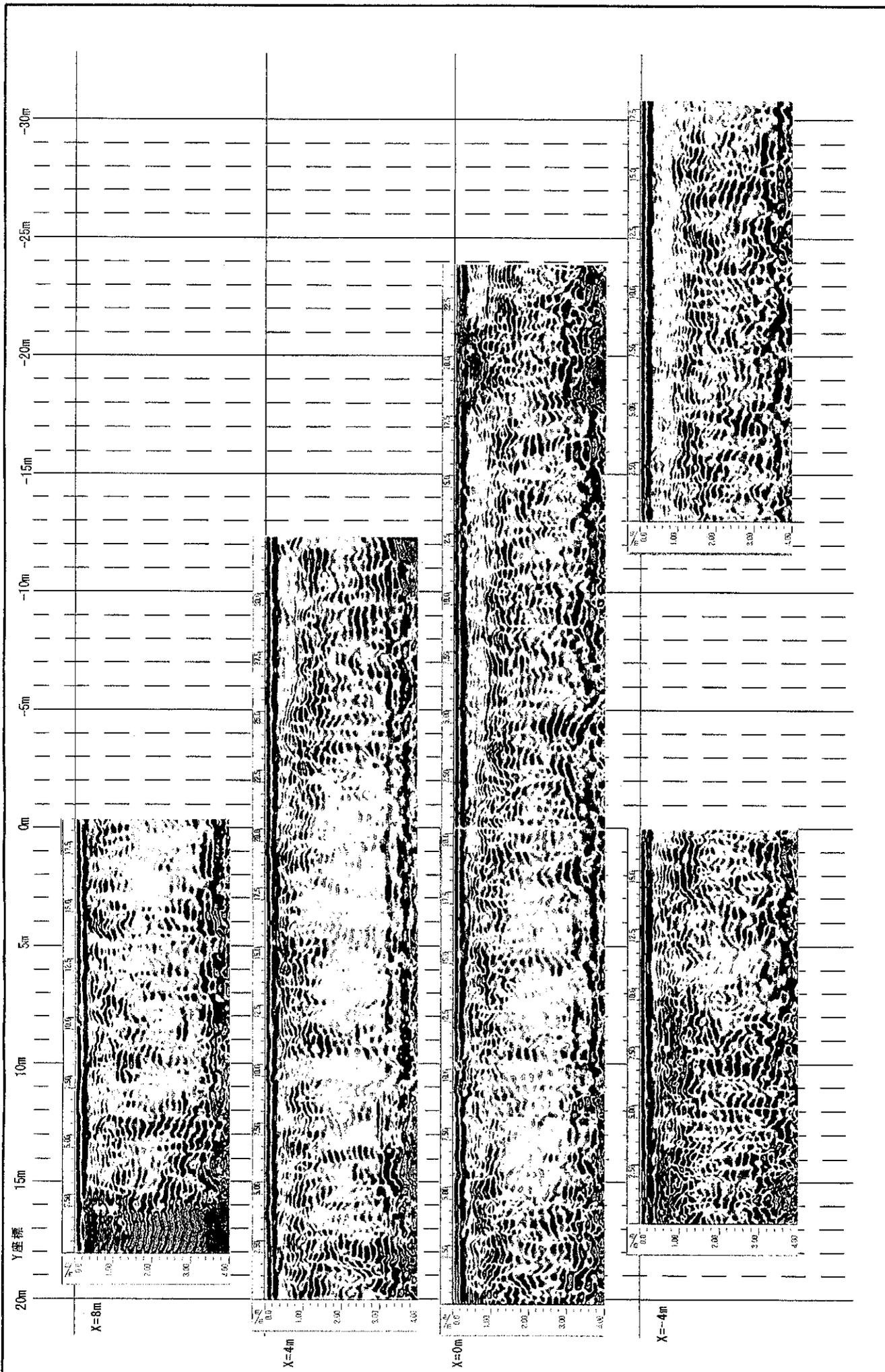
APPR	DATE	CHKD	DATE	Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究 レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 探査深度2.5m	財団法人 廃棄物研究財団殿	
APPR	DATE	CHKD	DATE		DWG. No.	Page
APPR	DATE	CHKD	DATE		EES-00-010	
SURVEY	DATE	SCALE	None	Work No.	TSK 月島機械株式会社	
				A99-001		



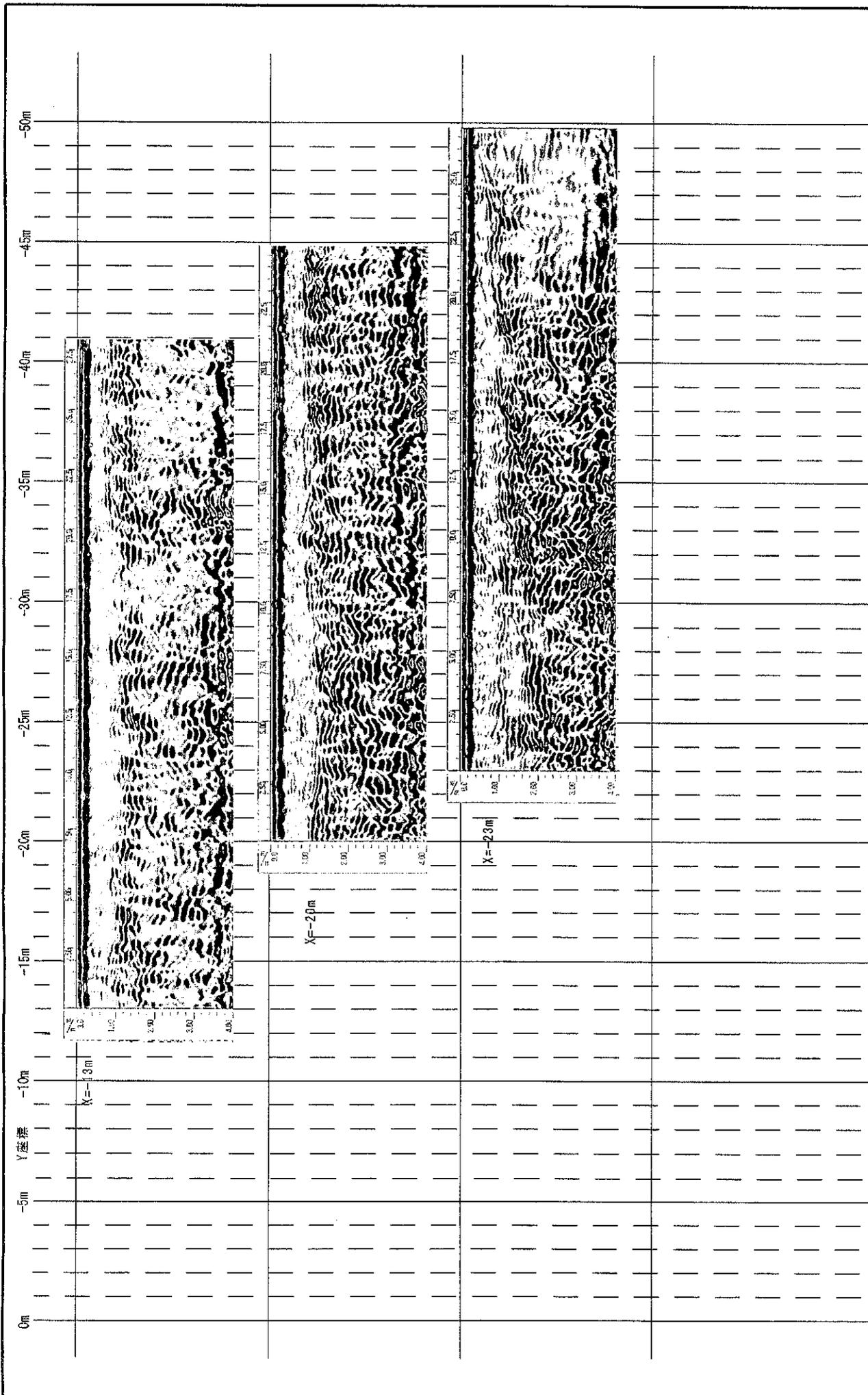
APPR	DATE	CHKD	DATE	Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究	財団法人 廃棄物研究財団 股	
APPR	DATE	CHKD	DATE		DWG. No.	Page
APPR	DATE	CHKD	DATE		EES-00-011	
SURVEY	DATE	SCALE	Work No.	TSK 月島機械株式会社		
		None	A99-001			



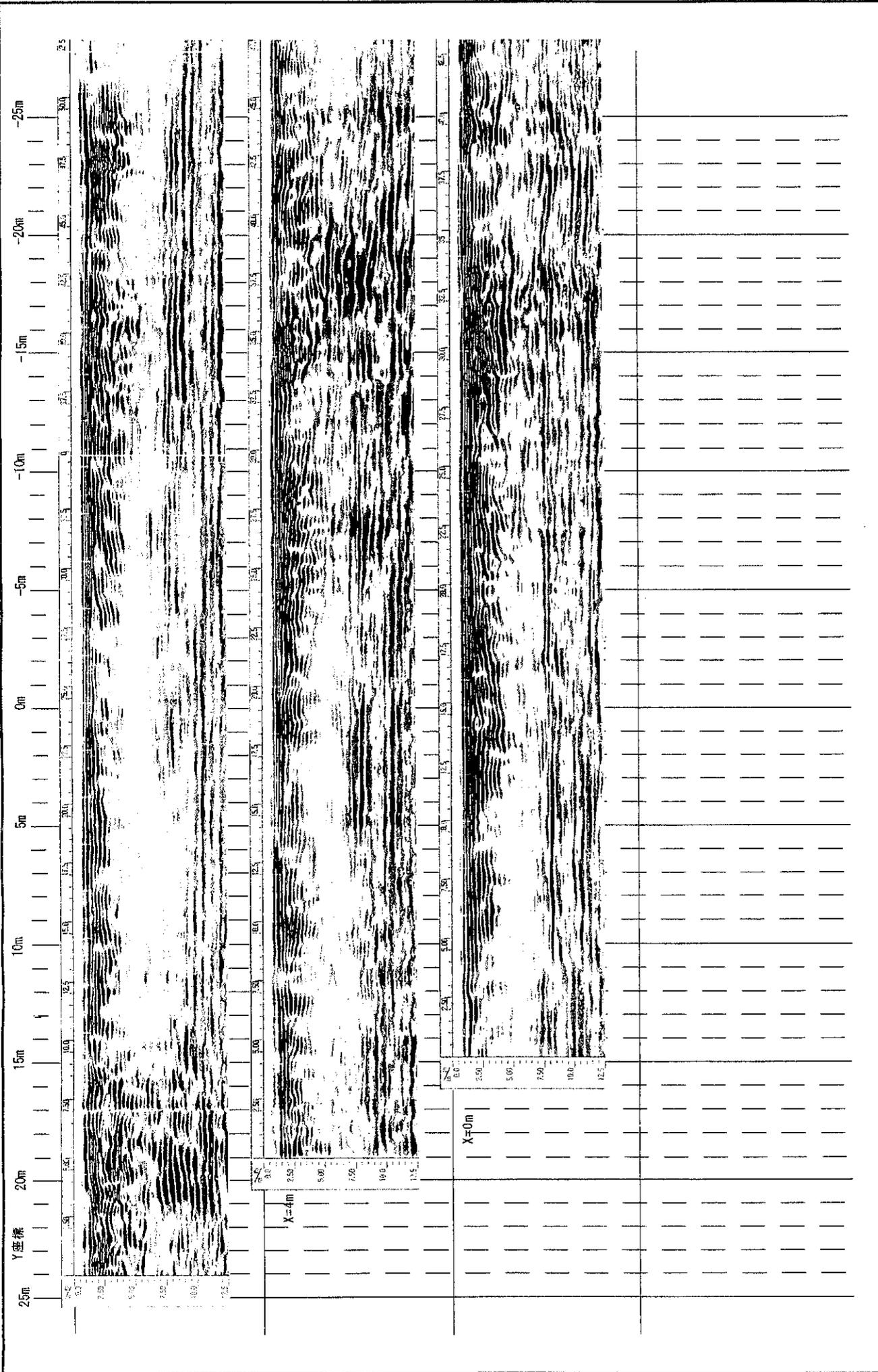
APPR	DATE	CHKD	DATE	Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究 レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 探査深度2.5m	財団法人 廃棄物研究財団殿	
APPR	DATE	CHKD	DATE		DWG. No.	EES-00-012
APPR	DATE	CHKD	DATE		Page	
SURVEY	DATE	SCALE	None		Work No.	A99-001
				TSK 月島機械株式会社		



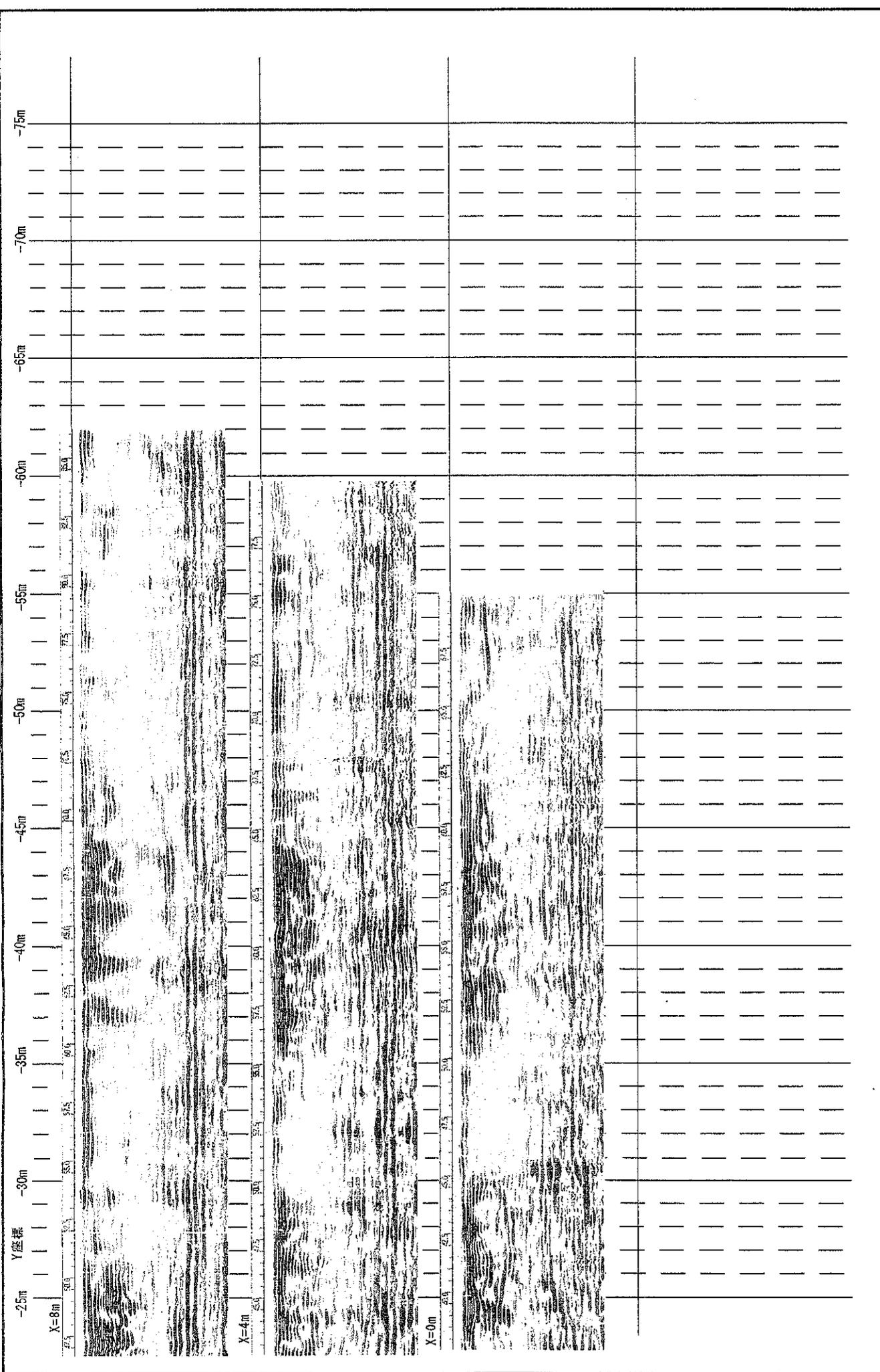
財団法人 廃棄物研究財団		Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究	
EES-00-013		レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 探査深度4m	
A99-001		Mark No.	
None		SCALE	
APR	DATE	END	DATE
APR	DATE	END	DATE
APR	DATE	END	DATE
SWRT	DATE	SCALE	None



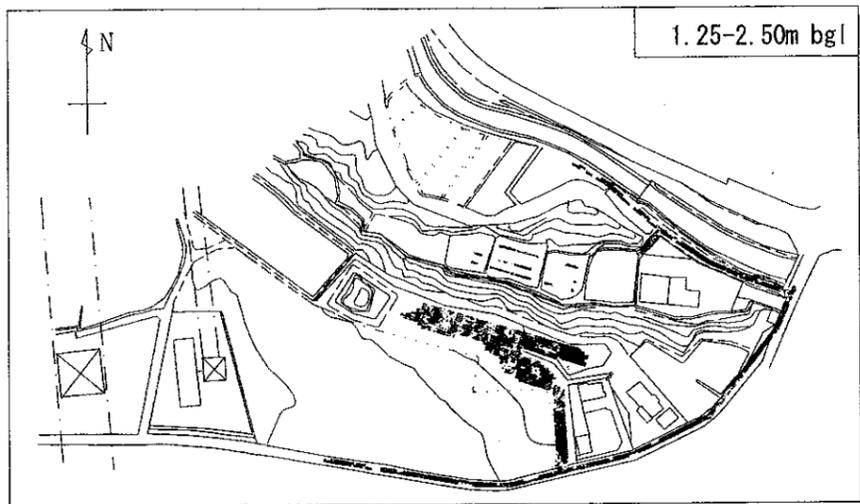
APR	DATE	SRD	DATE	Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究	
APR	DATE	SRD	DATE	レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 探査深度4m	
APR	DATE	SRD	DATE	Work No.	A99-001
SURVEY	DATE	SCALE	None	財団法人 廃棄物研究財団	
			Page		
			EES-00-014		
			DRG. No.		
			TSK 月島機械株式会社		



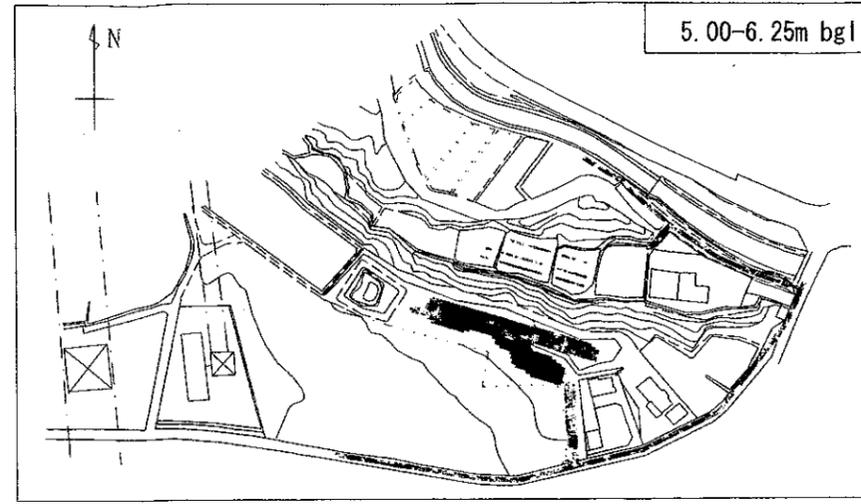
APPR		DATE	CRWD	DATE	Title		財団法人 廃棄物研究財団	
APPR	DATE	CRWD	DATE	レーダー探査新断面図 廃棄物埋設地 探査 深径 12.5m		EES-00-015		
APPR	DATE	CRWD	DATE	Work No. A99-001		Page		
SURVEY	DATE	SCALE	None		TSK 月島機械株式会社			



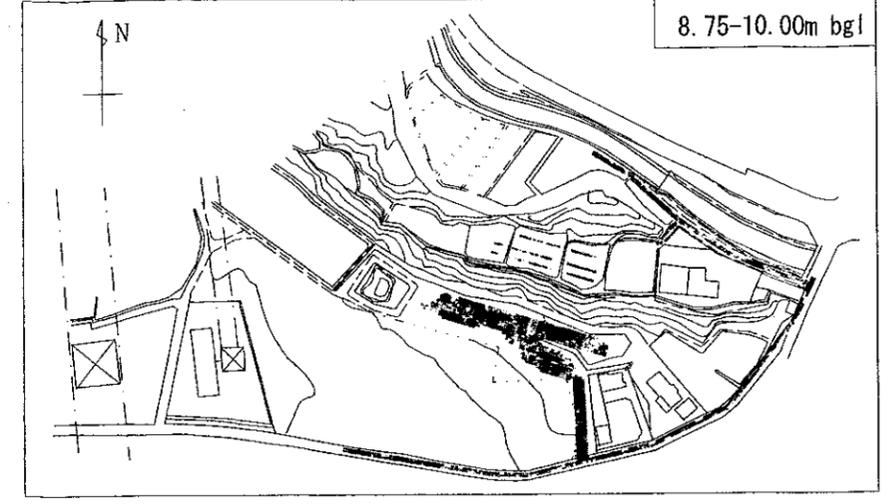
Title 廃棄物による環境汚染のオンサイト修復技術に関する研究 レーダー探査断面図 廃棄物埋設地 調査深度 12.5m		財団法人 廃棄物研究財団 設	
Work No. A99-001		DWG. No. EES-00-016	
None		Page	
APR DATE	MAY DATE	JUN DATE	JUL DATE
APR DATE	MAY DATE	JUN DATE	JUL DATE
APR DATE	MAY DATE	JUN DATE	JUL DATE
START DATE	SCALE	None	



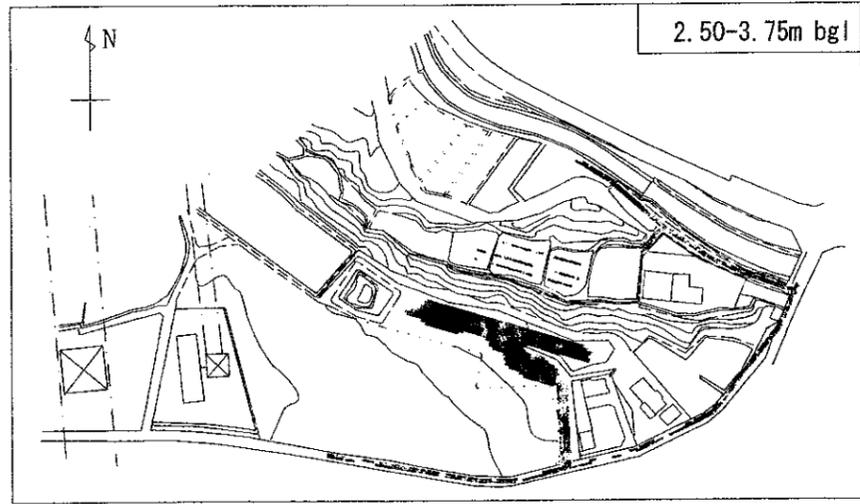
1.25-2.50m bgl



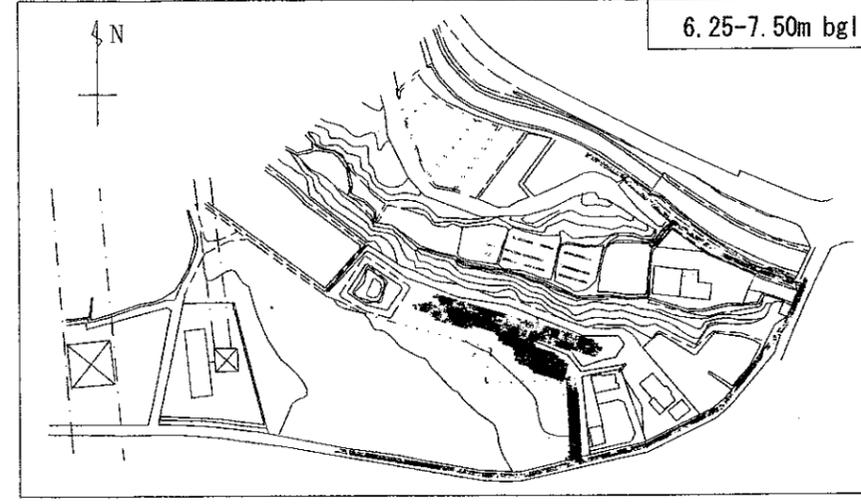
5.00-6.25m bgl



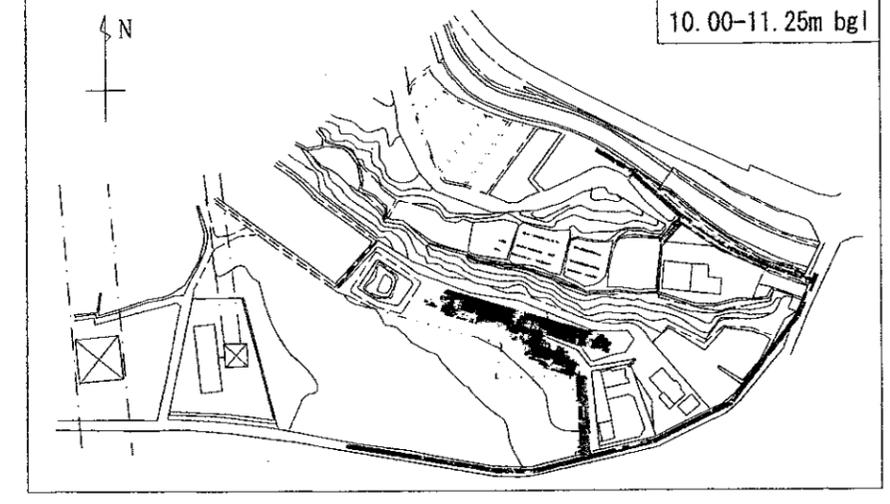
8.75-10.00m bgl



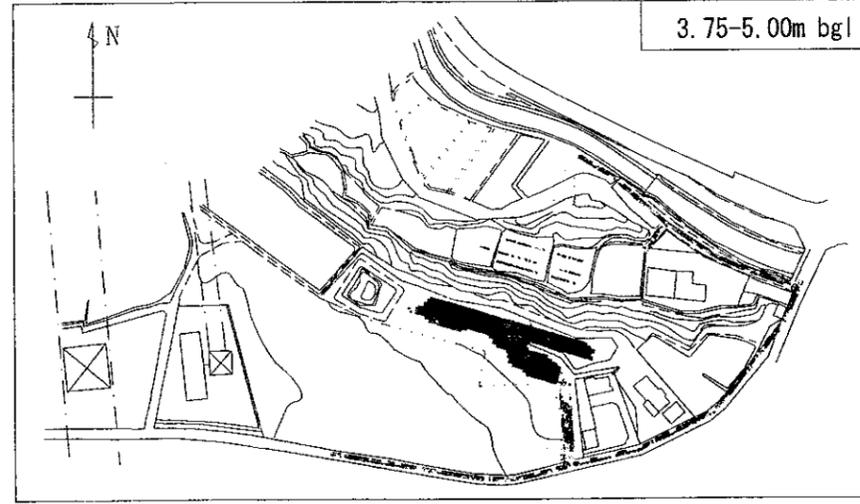
2.50-3.75m bgl



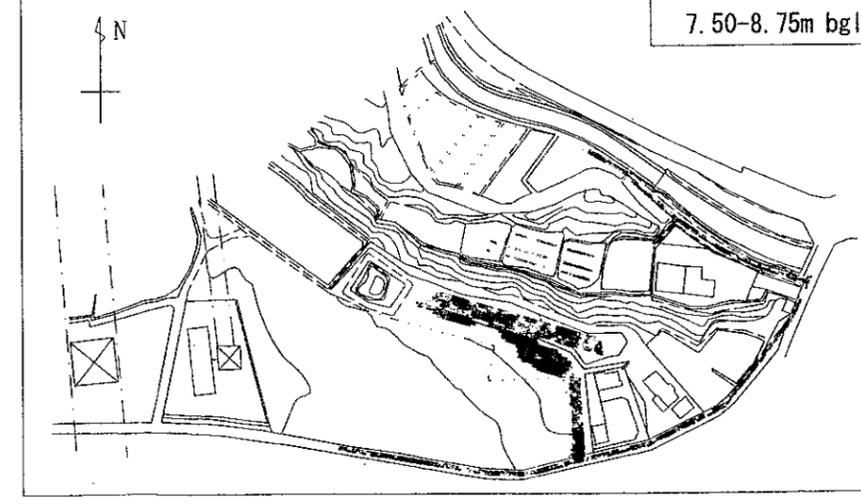
6.25-7.50m bgl



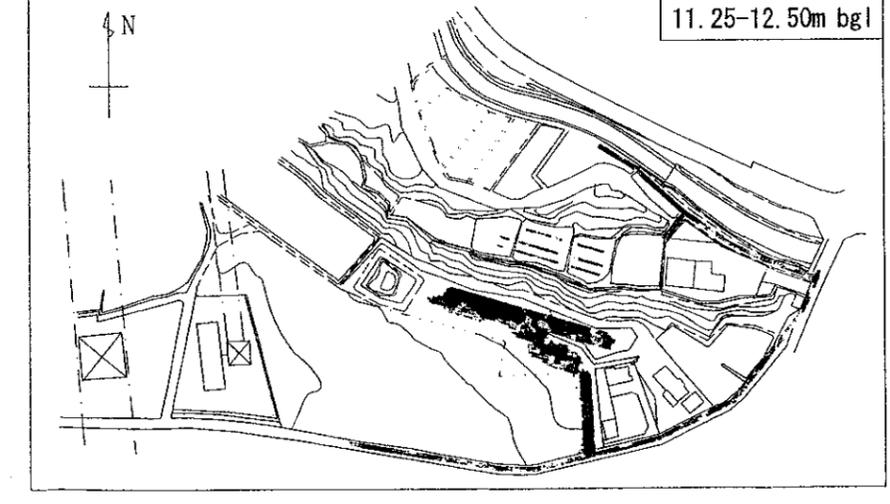
10.00-11.25m bgl



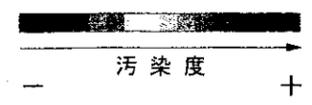
3.75-5.00m bgl



7.50-8.75m bgl



11.25-12.50m bgl

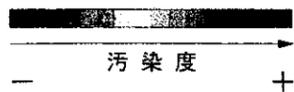
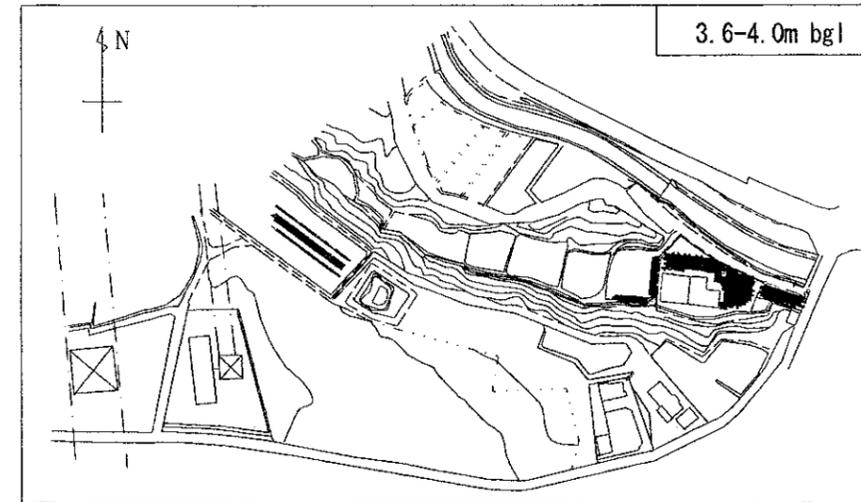
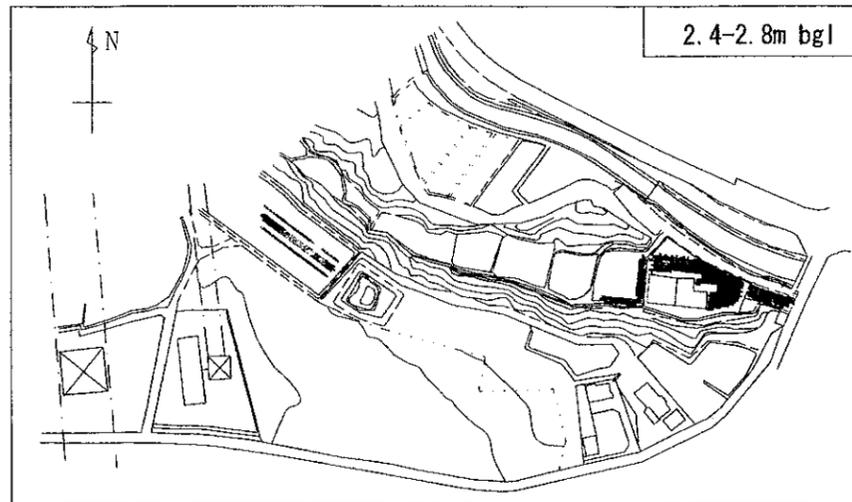
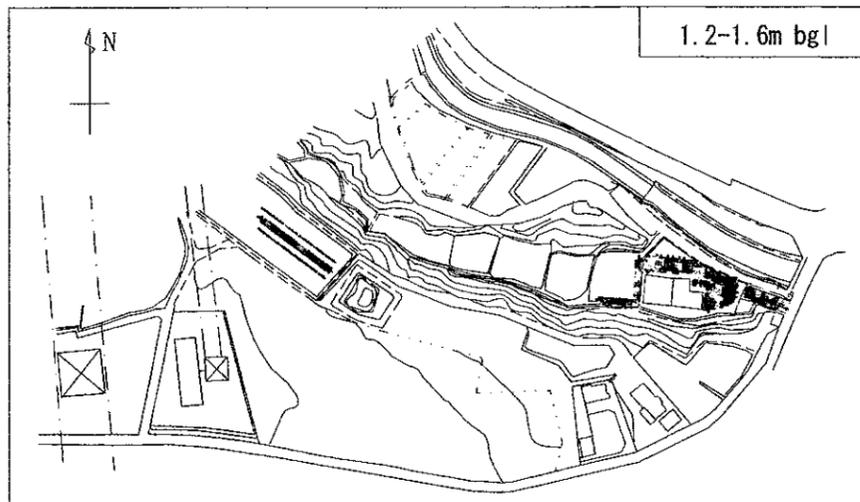
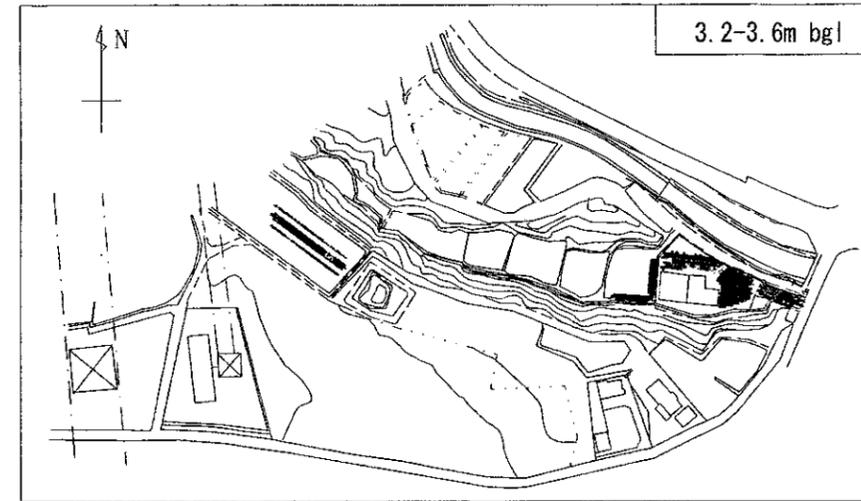
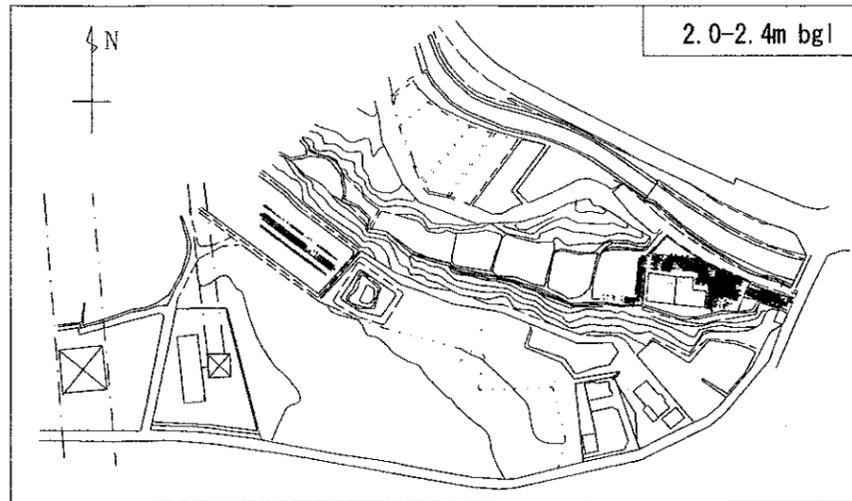
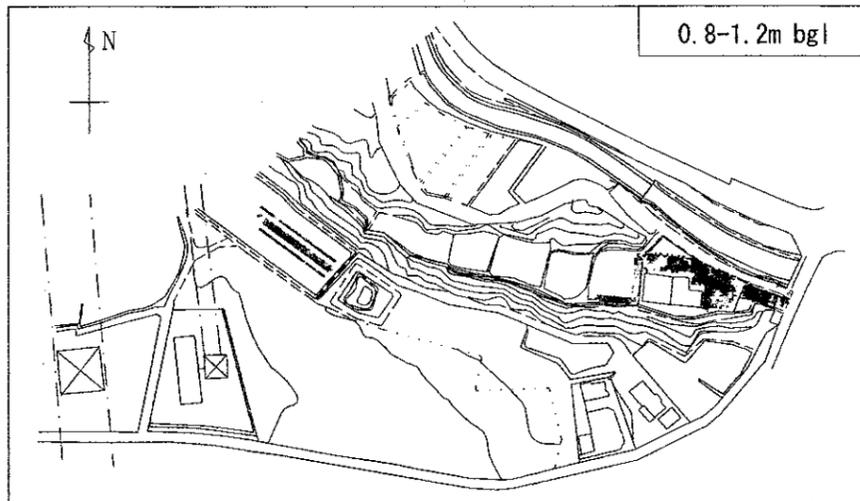
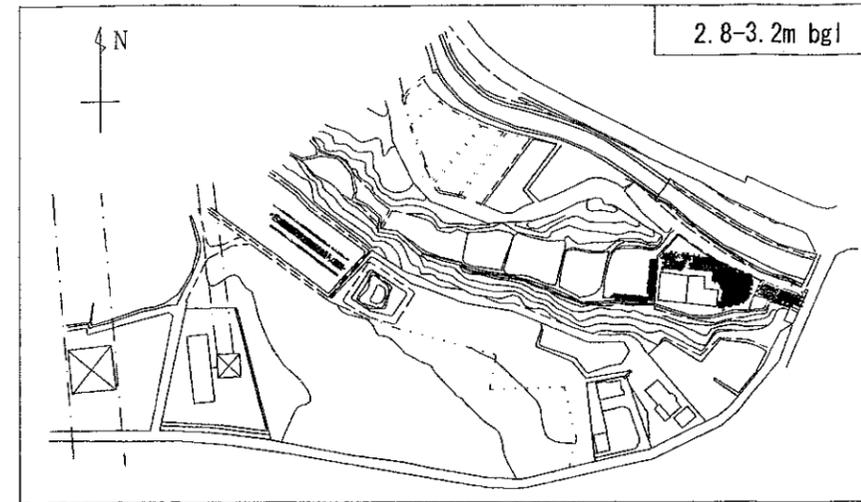
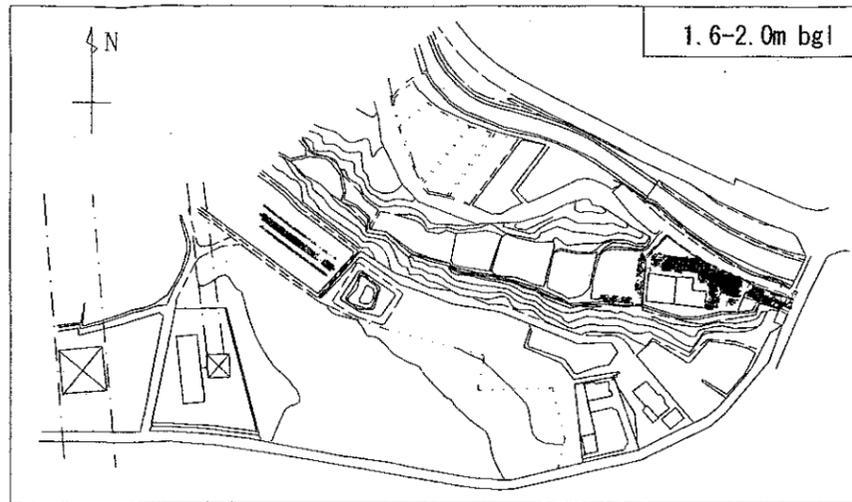
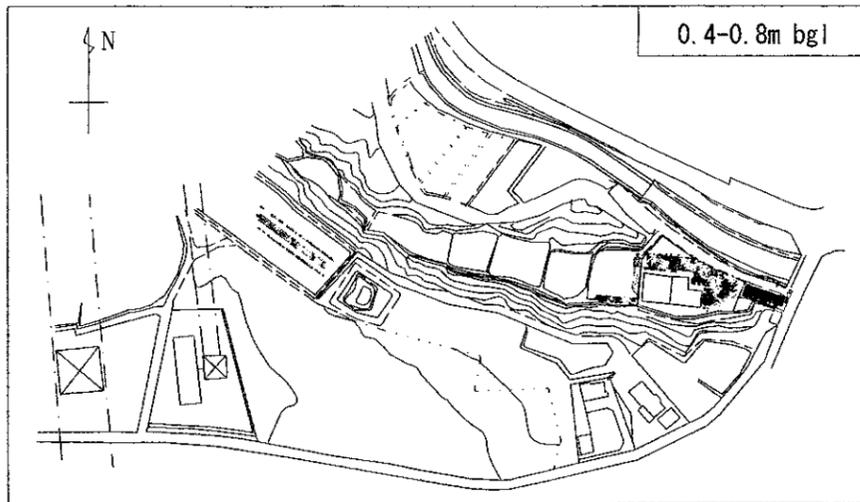


APPR	DATE	CHKD	DATE	TITLE	FOR
APPR	DATE	CHKD 伊藤	DATE	廃棄物による環境汚染のサバ付修復技術に関する研究	財団法人 廃棄物研究財団 殿
APPR	DATE	DWG 杉藤	DATE	EnviScan 2次元汚染分布図 (最大深度12.5m)	DWG. No. EES-00-001
SURVEY	DATE OF ISSUE	SCALE	JOB No.	DWG MARK	UNIT PERONE
		NONE	A99-001		Q. TY
					UNIT TOTAL

FOR 財団法人 廃棄物研究財団 殿

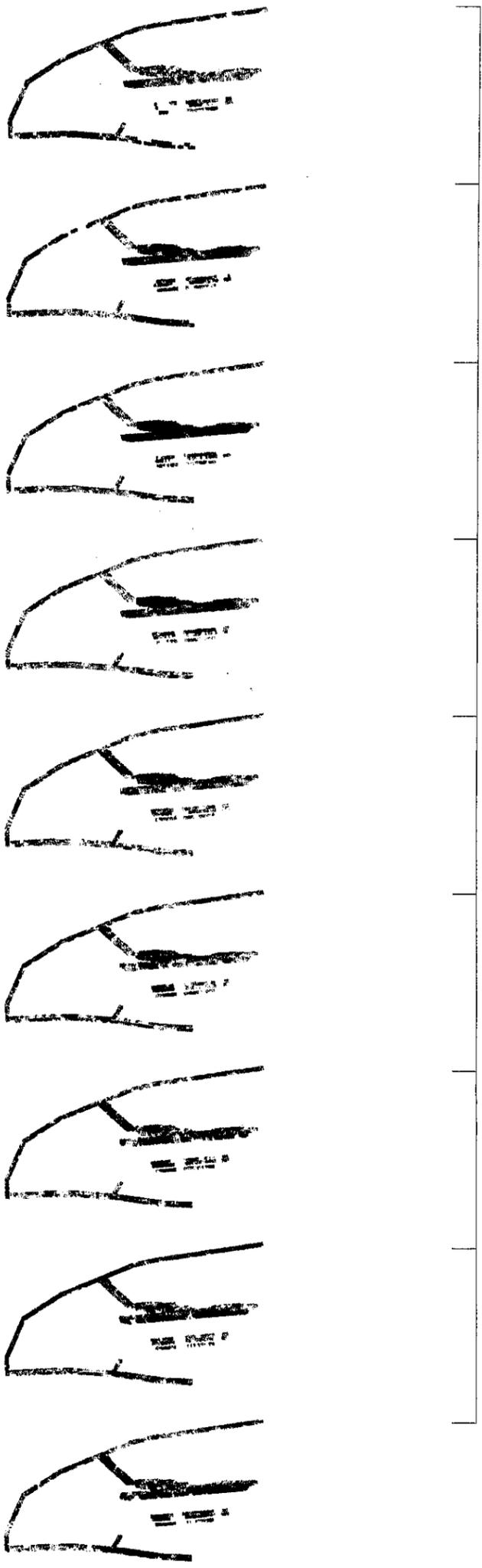
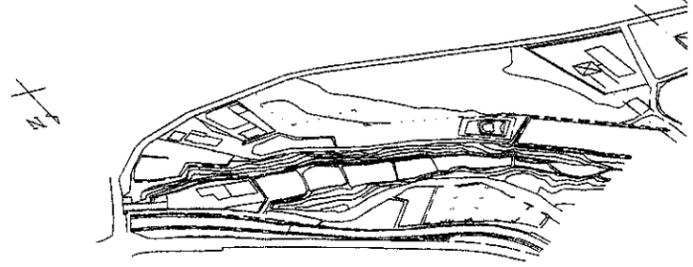
DWG. No. EES-00-001

TSK 月島機械株式会社

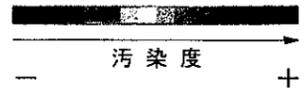


APPR	DATE	CHKD	DATE	TITLE	FOR
APPR	DATE	CHKD	伊藤	廃棄物による環境汚染のわが国修復技術に関する研究	財団法人 廃棄物研究財団 殿
APPR	DATE	DWG	杉藤	EnviScan 2次元汚染分布図 (最大深度4.0m)	DWG. No. EES-00-002
SURVEY	DATE OF ISSUE	SCALE	NONE	JOB No. A99-001	UNIT PERONE Q. TY UNIT TOTAL

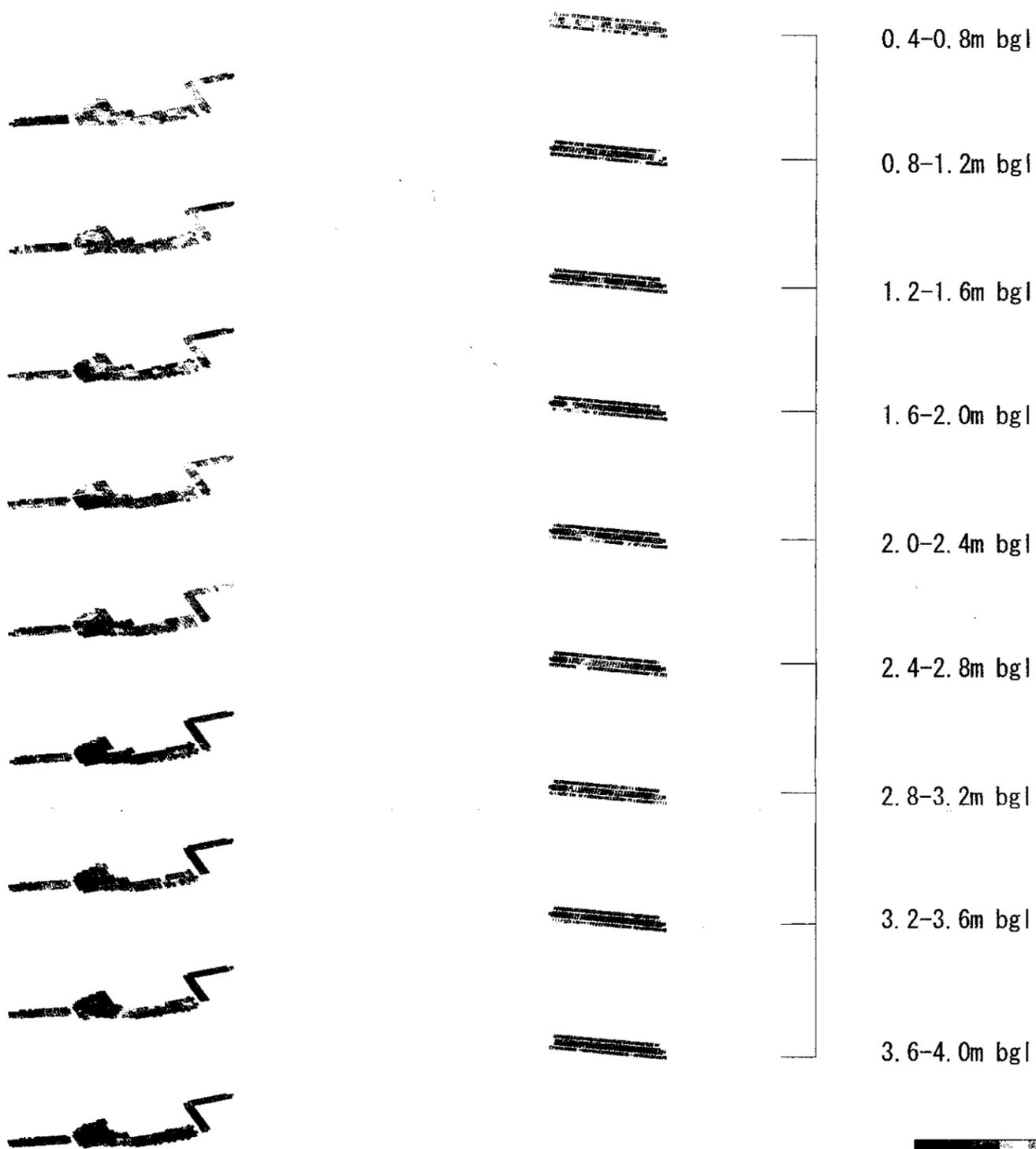
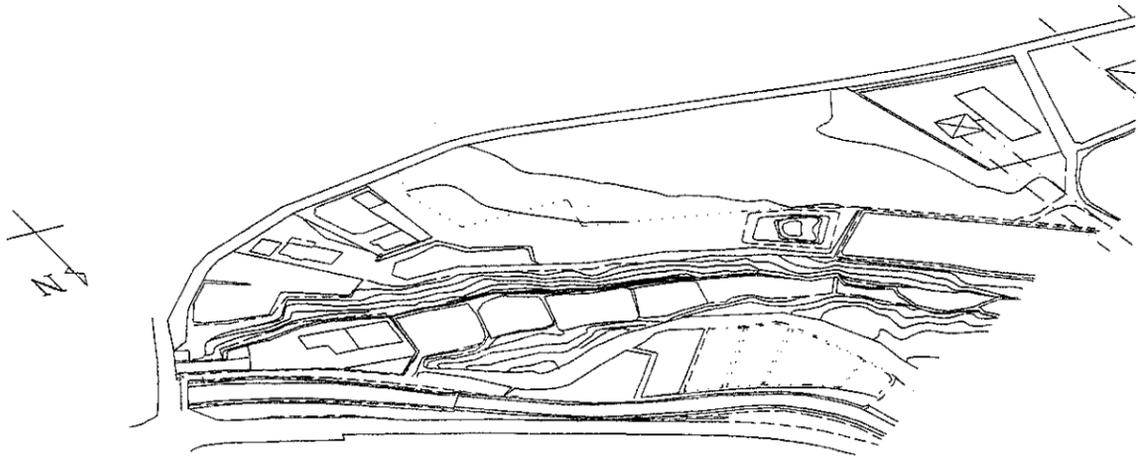
TSK 月島機械株式会社



- 1. 25-2. 50m bgl
- 2. 50-3. 75m bgl
- 3. 75-5. 00m bgl
- 5. 00-6. 25m bgl
- 6. 25-7. 50m bgl
- 7. 50-8. 75m bgl
- 8. 75-10. 00m bgl
- 10. 00-11. 25m bgl
- 11. 25-12. 50m bgl



APPR	DATE	CHKD	伊藤	DATE
CHKD	DATE	DWG	杉藤	DATE
SURVEY		DATE OF ISSUE		SCALE
				NONE
TITLE 廃棄物による環境汚染のわき目修復技術に関する研究				
EnviScan 3次元汚染分布図 (最大深度12.5m)				
FOR 財団法人 廃棄物研究財団 殿				
JOB NO. A99-001				
DWG. NO. EES-00-003				PAGE
TSK 月島機械株式会社				



0.4-0.8m bgl

0.8-1.2m bgl

1.2-1.6m bgl

1.6-2.0m bgl

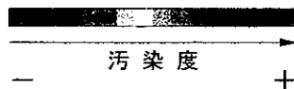
2.0-2.4m bgl

2.4-2.8m bgl

2.8-3.2m bgl

3.2-3.6m bgl

3.6-4.0m bgl



APPR	DATE	CHKD	伊藤	DATE
CHKD	DATE	DRG	杉藤	DATE
SURVEY		DATE OF ISSUE		SCALE
				NONE
TITLE 廃棄物による環境汚染の分析修復技術に関する研究				
EnviScan 3次元汚染分布図 (最大深度4m)				
FOR 財団法人 廃棄物研究財団 殿				
JOB NO.		A99-001		
DRG. NO.		EES-00-004		PAGE
TSK 月島機械株式会社				

資料編 2

第2編 遮断型最終処分場埋立物無害化方策検討調査

資料-1(2) 埋立物無害化方策技術適用性の検討

埋立物による 処分場分類	名称、事業者名	埋立物	有害物及び 濃度	容器の有 無	施設の状 況	埋立物の 均一性	埋立量	原位置(槽内)処理				原位置(槽外)処理				拡散防止	埋立物(槽内)処理による 汚染防止	除去	対策不要			
								薬剤固化	化学的不溶化	バイオレメディエーション	ガラス固化	熱脱着	洗浄・溶媒抽出	曝気	微生物分解					化学分解	焼却・熱分解・溶融	資源化
3.水銀法に 係る解体物 を廃棄してい る施設	Wwww	廃プラスチック、廃 塗料、廃水処理汚 泥、雑草類、修繕船 具類、蛍光灯管、 廃乾電池、試薬類	Pb(1.8ppm)、 Cd(0.52ppm)、 Cr(不検出)	有	比較的良 好	無	1210 m ³	容器を含み、薬液混 合が行えない。混合のた め攪拌する槽の破壊 の可能性がある。ま た、槽内では混合状 況が完全に確認でき ない。適用性：×	容器を含み、薬液 の不浸透部が発生 する。適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 はほとんど含まな い。適用性：×	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有するため対策 を要する。×
	Aa	塩水マッド、廃材、 土砂、電槽解体材	水銀(不検出)	無、全量 固化	不良	無	5671 m ³	既に固化されており、 浸透・混合できない。 適用性：×	既に固化されてお り、浸透・混合でき ない。適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	既に固化されてお り、技術適用の可 能性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。また、 本施設は全量固化 されており、破砕す る必要がある。適 用性：×	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、本施 設は全量固化され ており、破砕する 必要がある。焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：×	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	既に固化されてい るため、さらなる固 化・不溶化は必要 ない。適用性：×	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は事業者側 で埋立物無害化対 策として固化技術 が採用・実施され ているため、対策 不要と考える。○
	AAaa	塩水マッド、解体廃 材	Hg(不検出～ 6.5ppm)	無、一部 固化	不良	無	3494 m ³	容器を含み、薬液混 合が行えない。混合 のため攪拌する槽 の破壊の可能性がある。 また、槽内では混 合状況が完全に確 認できない。適用 性：×	埋立物の均一性が なく、不浸透部が 発生する。適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 のうち水銀を含む。 適用性：△	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有するため対策 を要する。×
BBbb	スレート、廃土、廃 材、コンクリートが ら	Hg(レベル不 明)	無	不良	無	1680 m ³	容器を含み、薬液混 合が行えない。混合 のため攪拌する槽 の破壊の可能性がある。 また、槽内では混 合状況が完全に確 認できない。適用 性：×	埋立物の均一性が なく、不浸透部が 発生する。適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 のうち水銀を含む。 適用性：△	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有するため対策 を要する。×	
4.電気炉の 集塵灰を廃 棄している施 設	CCcc	ばいじん	Pb(10.2ppm)、 Cd(24.2ppm)、 亜鉛(20～ 30%程度)	無	比較的良 好	有	200 m ³	容器を含み、薬液混 合の可能性がある。攪 拌する場合は槽の破 壊の可能性がある。ま た、槽内では混合状 況が完全に確認でき ず、容量が増加す る。適用性：△	容器を含まず、埋 立物が比較的均 一であり、薬液が浸 透する可能性がある。 また、槽内では混 合状況が完全に確 認できず、容量が増 加する。適用性：△	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 はほとんど含まな い。適用性：×	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	埋立物が均一であ り、有価物として重 金属を多量に含有す る。適用性：○	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有するため対策 を要する。×
	GGgg	ダスト	Cd(0.17ppm)、 Pb(10.9ppm)、 亜鉛(10%程 度以上)	無	比較的良 好	有	725 m ³	容器を含み、薬液混 合の可能性がある。攪 拌する場合は槽の破 壊の可能性がある。ま た、槽内では混合状 況が完全に確認でき ず、容量が増加す る。適用性：△	容器を含まず、埋 立物が比較的均 一であり、薬液が浸 透する可能性がある。 また、槽内では混 合状況が完全に確 認できず、容量が増 加する。適用性：△	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 はほとんど含まな い。適用性：×	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	埋立物が均一であ り、有価物として重 金属を多量に含有す る。適用性：○	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有するため対策 を要する。×
5.カーバイド 残渣汚泥を廃 棄している施 設	QQqq	カーバイド残渣	Hg(不検出)	無	比較的良 好	有	8090 m ³	容器を含み、薬液混 合の可能性がある。攪 拌する場合は槽の破 壊の可能性がある。ま た、槽内では混合状 況が完全に確認でき ず、容量が増加す る。適用性：△	容器を含まず、埋 立物が比較的均 一であり、薬液が浸 透する可能性がある。 また、槽内では混 合状況が完全に確 認できず、容量が増 加する。適用性：△	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 のうち水銀を含む 可能性がある。適 用性：△	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有しないため、 対策の必要性はな いと考えるが、地域 の安全性を考慮す れば対策を実施し た方が好ましい。△
	RRrr	カーバイド残渣	Hg(不検出)	無	比較的良 好	有	1902 m ³	容器を含み、薬液混 合の可能性がある。攪 拌する場合は槽の破 壊の可能性がある。ま た、槽内では混合状 況が完全に確認でき ず、容量が増加す る。適用性：△	容器を含まず、埋 立物が比較的均 一であり、薬液が浸 透する可能性がある。 また、槽内では混 合状況が完全に確 認できず、容量が増 加する。適用性：△	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 のうち水銀を含む 可能性がある。適 用性：△	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有しないため、 対策の必要性はな いと考えるが、地域 の安全性を考慮す れば対策を実施し た方が好ましい。△
	TTtt	カーバイド残渣	Hg(0.0070pp m)	無	不明	有	1600 m ³	容器を含み、薬液混 合の可能性がある。攪 拌する場合は槽の破 壊の可能性がある。ま た、槽内では混合状 況が完全に確認でき ず、容量が増加す る。適用性：△	容器を含まず、埋 立物が比較的均 一であり、薬液が浸 透する可能性がある。 また、槽内では混 合状況が完全に確 認できず、容量が増 加する。適用性：△	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	本技術に適用され る有機性有害物、 低沸点無機化合物 のうち水銀を含む 可能性がある。適 用性：△	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。適用 性：△	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：△	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	遮断槽の破壊を防 止するため、一度、 槽から埋立物を取 り出し、分別した 後、含有する重金 属に適用する薬剤 等で固化・不溶化 する。適用性：○	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：×	埋立物は有害物を 含有するため対策 を要する。×
UUuu	カーバイド残渣	Hg(不検出)	無、全量 固化	不明	有	144 m ³	既に固化されており、 浸透・混合できない。 適用性：×	既に固化されてお り、浸透・混合でき ない。適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	埋立物の溶融と ともに施設が破壊 される。適用性：×	既に固化されてお り、技術適用の可 能性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には酸・アルカリ 洗浄が有効と考 えるが、処理施設が 必要である。また、 本施設は全量固化 されており、破砕す る必要がある。適 用性：×	本技術は主として 液体有機性有害物 の分離に適用され る技術であり、無機 系の重金属処理の 適用性は小さい。 適用性：×	微生物が分解する 有機性有害物はほ んど含有しない。 適用性：×	本技術は主として 有機性有害物の分 解に適用される技 術であり、無機系 の重金属処理の適 用性は小さい。適 用性：×	無機系重金属の処 理には焼却・溶融 技術は有効と考 えるが、処理施設が 必要であり、本施 設は全量固化され ており、破砕する 必要がある。焼却 技術は灰の管理が 重要である。適用 性：×	資源化対象重金属 含有量が少ない。 適用性：×	外周仕切設備を強 化し、または、さら に外周に遮水壁を設 け、埋立物が地下 水に溶出し拡散す るのを防止する。 適用性：○	既に固化されてい るため、さらなる固 化・不溶化は必要 ないと考えるが、安 全性を追求し、溶 出試験を行い検討 する。適用性：△	埋立量が多く単純 には除去できない。 適用性：○	埋立物は有害物を 含有しないため、 対策の必要性はな いと考えるが、地域 の安全性を考慮す れば対策を実施し た方が好ましい。△	

資料-1(3) 埋立物無害化方策技術適用性の検討

埋立物による処分場分類	名称、事業者名	埋立物	有害物及び濃度	容器の有無	施設の状況	埋立物の均一性	埋立量	原位置(槽内)処理				原位置(槽外)処理				拡散防止		撤去	対策不要			
								薬剤固化	化学的不溶化	バイオレメディエーション	ガラス固化	熱脱着	洗浄・溶媒抽出	曝気	微生物分解	化学分解	焼却・熱分解・溶融			資源化	物理的封じ込め	分別・固化・不溶化
6.脱炭汚泥が主体である施設	Cc~Ss	汚泥、ばいじん、燃えがら、金属くず、鉱さい、ガラス薬品瓶	Pb(5.5ppm)、CN(5.5ppm)、Cd(4.5ppm)	有(少量)	比較的良好	やや有	175376 t	容器を少量含むが、容器を取り除いた場合、薬液混合の可能性は低い。攪拌する場合は槽の破壊の可能性もある。また、槽内では混合状況が完全に確認できず、容量が増加する。適用性:△	容器を少量含むが、容器を取り出した場合、埋立物が比較的均一であり、薬液が浸透する可能性は低い。適用性:○	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	埋立物の溶融とともに施設が破壊される。適用性:×	本技術に適用される有機性有害物、低沸点無機化合物はほとんど含まない。適用性:×	無機系重金属の処理には酸・アルカリ洗浄が有効と考えるが、処理施設が必要である。適用性:△	本技術は主として液体有機性有害物の分離に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	本技術は主として有機性有害物の分解に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	無機系重金属の処理には焼却・溶融技術は有効と考えるが、処理施設が必要であり、焼却技術は灰の管理が重要である。適用性:△	資源化対象重金属含有量が少ない。適用性:×	外周仕切設備を強化し、またはさらに外周に遮水壁を設け、埋立物が地下水に溶出し拡散するのを防止する。適用性:○	遮断槽の破壊を防止するため、及び容器を含むため、一度、槽から埋立物を取り出し、分別した後、含有する重金属に適用する薬剤等で固化・不溶化する。適用性:○	埋立量が多く単純には撤去できない。適用性:×	埋立物は有害物を含有するため対策を要する。×
	Tt	マキ汚泥、鉱さい	有機塩素化合物(20ppm)、Pb(5ppm)、Cd(20ppm)	有	比較的良好	無	214 m3	容器を含み、薬液混合が行えない。混合のため攪拌する場合は槽の破壊の可能性もある。また、槽内では混合状況が完全に確認できない。適用性:×	容器を含み、薬液の不浸透部が発生する。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物の含有量は小さい。適用性:×	埋立物の溶融とともに施設が破壊される。適用性:×	本技術に適用される有機性有害物、低沸点無機化合物はほとんど含まない。適用性:×	無機系重金属の処理には酸・アルカリ洗浄が有効と考えるが、処理施設が必要である。適用性:△	本技術は主として液体有機性有害物の分離に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物の含有量は小さい。適用性:×	本技術は主として有機性有害物の分解に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	無機系重金属の処理には焼却・溶融技術は有効と考えるが、処理施設が必要であり、焼却技術は灰の管理が重要である。適用性:△	資源化対象重金属含有量が少ない。適用性:×	外周仕切設備を強化し、またはさらに外周に遮水壁を設け、埋立物が地下水に溶出し拡散するのを防止する。適用性:○	遮断槽の破壊を防止するため、及び容器を含むため、一度、槽から埋立物を取り出し、分別した後、含有する重金属に適用する薬剤等で固化・不溶化する。適用性:○	埋立量が多く単純には撤去できない。適用性:×	埋立物は有害物を含有するため対策を要する。×
7.その他、自社等から排出される廃棄物を廃棄している施設	Ww	中和さい	As(33ppm)	無	不良	有	40953 m3	容器を含まず、薬液混合の可能性がある。攪拌する場合は槽の破壊の可能性もある。また、槽内では混合状況が完全に確認できず、容量が増加する。適用性:△	容器を含まず、埋立物が比較的均一であり、薬液が浸透する可能性は高い。しかし槽の施工状況が悪い。適用性:△	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	埋立物の溶融とともに施設が破壊される。適用性:×	本技術に適用される有機性有害物、低沸点無機化合物はほとんど含まない。適用性:×	無機系重金属の処理には酸・アルカリ洗浄が有効と考えるが、処理施設が必要である。適用性:△	本技術は主として液体有機性有害物の分離に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	本技術は主として有機性有害物の分解に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	無機系重金属の処理には焼却・溶融技術は有効と考えるが、処理施設が必要であり、焼却技術は灰の管理が重要である。適用性:△	埋立物が均一であり、有害物は元素のみであり、かつ含有量が多い。適用性:○	外周仕切設備を強化し、またはさらに外周に遮水壁を設け、埋立物が地下水に溶出し拡散するのを防止する。適用性:○	遮断槽の破壊を防止するため、及び容器を含むため、一度、槽から埋立物を取り出し、分別した後、含有する重金属に適用する薬剤等で固化・不溶化する。適用性:○	埋立量が多く単純には撤去できない。適用性:×	埋立物は有害物を含有するため対策を要する。×
	Yy	廃酸・廃アルカリ中和液、金属くず、汚泥	As、硫酸(100ppm)、廃アルカリ(100ppm)	無、全量固化	比較的良好	無	1287 m3	既に固化されており、浸透・混合できない。適用性:×	既に固化されており、浸透・混合できない。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	埋立物の溶融とともに施設が破壊される。適用性:×	本技術に適用される有機性有害物、低沸点無機化合物はほとんど含まない。適用性:×	無機系重金属の処理には酸・アルカリ洗浄が有効と考えるが、処理施設が必要である。また、本施設は全量固化されており、破砕する必要はない。適用性:×	本技術は主として液体有機性有害物の分離に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	本技術は主として有機性有害物の分解に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	無機系重金属の処理には焼却・溶融技術は有効と考えるが、処理施設が必要であり、焼却技術は灰の管理が重要である。適用性:×	資源化対象重金属含有量が少ない。適用性:×	外周仕切設備を強化し、またはさらに外周に遮水壁を設け、埋立物が地下水に溶出し拡散するのを防止する。適用性:○	既に固化されているため、さらなる固化・不溶化は必要ない。適用性:×	埋立量が多く単純には撤去できない。適用性:×	埋立物が事業者側で埋立物無害化対策として固化技術が採用・実施されているため、対策不要と考える。○
	Zz	中和汚泥	CN化合物(0.06ppm)、Cr(0.6ppm)	有	比較的良好	有	5.4 m3	容器を含むが袋であり取り除く必要はない。攪拌する場合は槽の破壊の可能性もある。また、槽内では混合状況が完全に確認できず、容量が増加する。適用性:△	埋立物が均一であり、薬液が浸透する可能性は高い。埋立物は全て袋に入れてある。適用性:△	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	埋立物の溶融とともに施設が破壊される。適用性:×	本技術に適用される有機性有害物、低沸点無機化合物はほとんど含まない。適用性:×	無機系重金属の処理には酸・アルカリ洗浄が有効と考えるが、処理施設が必要である。適用性:△	本技術は主として液体有機性有害物の分離に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	本技術は主として有機性有害物の分解に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	無機系重金属の処理には焼却・溶融技術は有効と考えるが、処理施設が必要であり、焼却技術は灰の管理が重要である。適用性:△	資源化対象重金属含有量が少ない。適用性:×	外周仕切設備を強化し、またはさらに外周に遮水壁を設け、埋立物が地下水に溶出し拡散するのを防止する。適用性:○	遮断槽の破壊を防止するため、及び容器を含むため、一度、槽から埋立物を取り出し、分別した後、含有する重金属に適用する薬剤等で固化・不溶化する。適用性:○	埋立量が多く単純には撤去できない。適用性:△	埋立物は有害物を含有するため対策を要する。×
	EEee	廃石綿	無	有、全量固化	比較的良好	無	550 t	既に固化されており、浸透・混合できない。適用性:×	既に固化されており、浸透・混合できない。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	埋立物の溶融とともに施設が破壊される。適用性:×	本技術に適用される有機性有害物、低沸点無機化合物は含まない。適用性:×	無機系重金属の処理には酸・アルカリ洗浄が有効と考えるが、処理施設が必要である。また、本施設は全量固化されており、破砕する必要はない。適用性:×	本技術は主として液体有機性有害物の分離に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	微生物が分解する有機性有害物はほとんど含まれない。適用性:×	本技術は主として有機性有害物の分解に適用される技術であり、無機系重金属処理の適用性は小さい。適用性:×	無機系重金属の処理には焼却・溶融技術は有効と考えるが、処理施設が必要である。本施設は全量固化されており、破砕する必要はない。焼却技術は灰の管理が重要である。適用性:×	資源化対象重金属含有量が少ない。適用性:×	埋立物は溶出し拡散する廃棄物ではない。適用性:△	既に固化されているため、さらなる固化・不溶化は必要ない。適用性:×	埋立量が多く単純には撤去できない。適用性:×	埋立物は石綿であり、溶出しによる汚染を生じない物質であり、対策不要と考える。○
	KKkk	燃えがら、ばいじん	Cr6+(0.27ppm)、Pb(17~18ppm)	無	不良	有	無害化対策実施中のため、ほとんど無し															
8.使用実績なし、または、無害化対策中である施設	Uu	無	無	無	-	埋立物無	0m3															処分場は未使用であり、埋立物は存在しないため、対策不要と考える。○
	Xx	無	無	無	-	埋立物無	0m3															処分場は未使用であり、埋立物は存在しないため、対策不要と考える。○
	DDdd	無	無	無	良好	埋立物無	0m3															処分場は未使用であり、埋立物は存在しないため、対策不要と考える。○
	FFff	無	無	無	-	埋立物無	0m3															処分場は既に廃止・手続されており、埋立物は存在しないため、対策不要と考える。○

「-」は調査対象外としたため、確認していない。
 適用性について
 ○:適用性があると考えられる。
 △:適用の可能性が考えられる。
 ×:適用性はないと考えられる。
 □:は技術の適用性があるか、適用の可能性が考えられるものを示す。

資料-2 埋立物無害化方策技術適用性一覧

埋立物による処分場分類	名称、事業者名	埋立物	有害物及び濃度	容器の有無	施設の状態	埋立物の均一性	埋立量	原位置(槽内)処理					原位置(槽外)処理							分別・固化・不溶化	撤去	対策不要
								薬剤固化	化学的不溶化	バイオフィメーション	ガラス固化	熱脱着	洗浄・溶媒抽出	曝気	微生物分解	化学分解	焼却・熱分解・溶融	資源化				
																			原位置(槽内)処理に準ずる方法			
1.多様な廃棄物を廃棄している施設	Bb	汚泥、廃プラスチック、金属くず、燃えがら、ガラス・陶磁器くず、ばいじん、混合灰、クロム、廃酸処理汚泥、合成樹脂、廃薬品	Pb(0.789ppm)、Cd(42.5ppm)、As(3.09ppm)	有	不良	無	827 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	Vv	不明	不明(重金属の可能性が大きい)	有	やや不良	不明	460 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	HHhh~JJj	ダスト、メッキ排水処理汚泥、電気集塵ダスト、アスベスト	Cd(5ppm)、Pb(8ppm)、Cr6+(5ppm)	有	やや不良	無	51660 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	LLll	ばいじん、ガラス・陶磁器くず、廃蛍光灯、汚泥、クロム、電解スラッジ、廃乾電池	Cd(2.7ppm)、Cr6+(4600ppm)、その他(Hg)	有	比較的良好	無	1360 m3	×	×	×	×	△	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	NNnn	不良13号廃棄物、乾電池、土砂、汚泥	Cr6+、Hg、CN、Cd(推定)	有	やや不良	無	157 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	△	×	
	PPpp	汚泥、燃えがら、水銀電池等	As(1040ppm)、その他(Hg)	有	比較的良好	有(一部混合)	1120 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	△	○	×	×	
2.焼却灰が主体である施設	MMmm	焼却灰(ばいじん、電球、乾電池、蛍光灯、水銀灯)	Pb(0.4ppm)、Cd(不検出)、Cr6+(不検出)	無	比較的良好	有(一部混合)	88 m3	△	○	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	○	×	
	OOoo	タイヤ燃えがら	不明(重金属の可能性有り)	無	不明	有	27 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	○	×	
	SSss	燃えがら、汚泥	As(0.88ppm)、Cr6+(1.01ppm)	有	比較的良好	無	3 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	○	×	
	VVvv	メッキスラッジ、ダスト、燃えがら、劇物	Cd(2.1ppm)、Cr6+(1.6ppm)、その他(Pb)	有(少量)	比較的良好	有	2599 m3	△	○	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	WWww	廃プラスチック、廃塗料、廃水処理汚泥、雑芥類、修繕船貝類、蛍光灯くず、廃乾電池、試薬類	Pb(1.8ppm)、Cd(0.52ppm)、Cr(不検出)	有(少量)	比較的良好	無	1210 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
3.水銀法に係る解体物を廃棄している施設	Aa	塩水マッド、廃材、土砂、電槽解体材	水銀(不検出)	無、全量固化	不良	無	5671 m3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
	AAaa	塩水マッド、解体廃材	Hg(不検出~6.5ppm)	無、一部固化	不良	無	3494 m3	×	×	×	×	△	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	BBbb	スレート、廃土、廃材、コンクリートがら	Hg(レベル不明)	無	不良	無	1680 m3	×	×	×	×	△	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
4.電気炉の集塵灰を廃棄している施設	CCcc	ばいじん	Pb(10.2ppm)、Cd(24.2ppm)、亜鉛(20~30%程度)	無	比較的良好	有	200 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	○	○	×	×	
	GGgg	ダスト	Cd(0.17ppm)、Pb(10.9ppm)、亜鉛(10%程度以上)	無	比較的良好	有	725 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	○	○	×	×	
5.カーバイド残渣汚泥を廃棄している施設	QQqq	カーバイド残渣	Hg(不検出)	無	比較的良好	有	8090 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	△	
	RRrr	カーバイド残渣	Hg(不検出)	無	比較的良好	有	1902 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	△	
	TTtt	カーバイド残渣	Hg(0.0070ppm)	無	不明	有	1600 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	UUuu	カーバイド残渣	Hg(不検出)	無、全量固化	不明	有	144 m3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	○	△	
6.脱灰汚泥が主体である施設	Cc~Ss	汚泥、ばいじん、燃えがら、金属くず、鉱さい、ガラス薬品瓶	Pb(5.5ppm)、CN(5.5ppm)、Cd(4.5ppm)	有(少量)	比較的良好	やや有	175576 t	△	○	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
7.その他、自社等から排出される廃棄物を廃棄している施設	Tt	メッキ汚泥、鉱さい	有機塩素化合物(20ppm)、Pb(5ppm)、Cd(20ppm)	有	比較的良好	無	214 m3	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	
	Ww	中和さい	As(33ppm)	無	不良	有	40953 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	○	○	×	×	
	Yy	廃酸・廃アルカリ中和液、金属くず、汚泥	As、廃酸(100ppm)、廃アルカリ(100ppm)	無、全量固化	比較的良好	無	1287 m3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
	Zz	中和汚泥	CN化合物(0.06ppm)、Cr(0.6ppm)	有	比較的良好	有	5.4 m3	△	△	×	×	×	△	×	×	×	△	×	○	△	×	
	Eee	廃石綿	無	有、全量固化	比較的良好	無	550 t	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
8.使用実績なし、または、無害化対策中である施設	KKkk	燃えがら、ばいじん	Cr6+(0.27ppm)、Pb(17~18ppm)	無	不良	有	無害化対策実施中のため、ほとんど無し	無害化対策実施中のため、無害化方策検討対象外											○			
	Uu	無	無	無	-	埋立物無	0m3	無害化方策検討対象外											○			
	Xx	無	無	無	-	埋立物無	0m3	無害化方策検討対象外											○			
	DDdd	無	無	無	良好	埋立物無	0m3	無害化方策検討対象外											○			
	FFff	無	無	無	-	埋立物無	0m3	無害化方策検討対象外											○			

「-」は調査対象外としたため、確認していない。

適用性について

○:適用性があると考えられる。

△:適用の可能性が考えられる。

×:適用性はないと考えられる。

■は技術の適用性があるか、適用の可能性が考えられるものを示す。